

## 例会のお知らせ (2)

### 6 月 の 例 会 (2)

#### 第 3 回山の気象シンポジウム

##### 講演要旨

日時：1959年6月13日 13時

場所：気象庁第1会議室

#### 1. 冬の北岳の気象 (15分)

平田正昭 (フェルス登攀会)

12月30日から1月5日迄11名で北岳バットレスで冬山合宿を行ったが、1月2日14時40分上叡加積が第一尾根支稜上部にて雪崩にまき込まれて行方不明となった。この期間の気象と雪崩について報告する。

#### 2. 春の鹿島槍の気象 (15分)

真家雅彦 (千葉医大山岳部)

18名で3月21日から4月6日迄春山合宿を行った期間の気象について報告する。

#### 3. 春の鹿島槍の気象 (15分)

武内敏男 (アルムクラブ)

5月1日から4日迄22名で大冷沢に行った合宿の気象報告である。

#### 4. 冬の双子尾根の気象 (15分) 大井正一 (高層課)

1954年12月29日より1月6日迄後立山杓子尾根アルムクラブ冬山合宿当時の気象について報告する。

#### 5. 春の剣岳の気象 (15分) 橋本清 (明大山岳部) 3月

2日より24日迄赤尾根より剣岳に於て春山合宿を行ったが、期間中の気象と雪崩について報告する。

#### 6. 春の剣岳の気象 (15分) 柴田武夫 (東大山岳部)

3月14日より4月7日迄41名で赤谷尾根、早月尾根、北仙入尾根、奥大日、西大谷に春山合宿を行ったが期間中の気象について報告する。

#### 7. 春の槍穂高の気象 (15分)

佐藤浩幸 (学習院大山岳部)

3月5日から20日迄14名で北鎌より西穂及明神、濁沢の春山合宿を行ったが、この期間中の気象を報告する。

#### 8. 冬の穂高の気象 (20分) 杉山正洋 (早大山岳部)

12月18日より11日間の予定で13名で明神東稜より北穂、前穂北尾根、鳥帽子より北穂、八方より鹿島槍に冬山合宿を行ったが、22日12時5分東稜の一枚岩付近で4名が雪崩を起して行方不明になった。期間中の気象と雪崩について報告する。

#### 9. 冬の穂高の気象 菅原省司 (日大山岳部)

日大山岳部では横尾谷、前穂北尾根、北穂北壁及び東稜に冬山合宿を行ったが26日15時30分サイテングラート

で雪崩に逢い、気象係の菊池及び上村が行方不明になった。この前後の気象及び雪崩について報告したい。

10. 秋の谷川岳の気象 (15分) 林幸司 (溪峰山岳会)  
1958年10月15日1名が幕岩下にて墜死したが、其の前後の気象について報告する。

11. 冬の谷川岳の気象 (30分) 庄司 亮 (企画課)  
メラオクラブでは8名で2月20日より24日迄谷川岳の気象をNTV後援で撮影したが、当時の気象を映画で説明したい。

#### 12. 富士山の気象 (第3報) (15分)

山本三郎 (富士山測候所)

富士山では例年数件の事故があるが、これらを富士山測候所の資料を用いて調べて見たい。

#### 13. 富士山における風速の分散と遭難 (20分)

村越 望 (東管技術課)

100m 風速でこの風速を測り、その分布を調べて見たが、風速の方が遭難に関係が深いと思われる。

#### 14. 夏の立山気象観測 (20分)

近藤・本吉・谷口 (高稜中学)

1957、58年に延50名で夫々5ヶ所及び9ヶ所で1日の毎時同時観測を行った。

#### 15. 山岳における雪面の熱効果 (15分)

下村登喜夫 (理大気象部)

1958年12月—1959年1月谷川岳理大山荘に於て行われた雪面上の微気象観測の結果から、雪面の気温に及ぼす影響に就いて述べる。

#### 16. 山岳気象の現状 (20分) 吉川友章 (東管技術課)

山岳気象観測の目的とその変遷について述べ、現在の我が国及び外国の気象研究が山岳をどのように取扱っているかを紹介する。

#### 17. 気圧型別に見た降水量分布 (20分)

奥山 敏 (予報課)

1年間の降水量資料を用い気圧型別の降水量分布図を関東甲信を中心に作成した。これに依ればこの山はどう云う気圧型の時に降り易いか等が判る。

#### 18. 天気図による天気予報の練習法 (20分)

久米庸孝 (予報課)

前回ラジオ天気図を練習する場合の要領について話した。今日は、天気図を書けるようになった人が、天気図をもとにして天気予報をやる場合、どのような方法で練習すれば上達が早いのか、その要領について述べる。

#### 19. 懇親会